

氏名	五味 晴 美
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 2135号
学位授与の日付	平成13年3月25日
学位授与の要件	医学研究科社会医学系衛生学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	In Vitro Antimicrobial Susceptibility Testing of Bacterial Enteropathogens Causing Traveler's Diarrhea in Four Geographic Regions (世界4地域における旅行者下痢症に起因する細菌性腸病原 体の、In-Vitroにおける抗生物質に対する感受性について)
論文審査委員	教授 小熊 恵二 教授 吉良 尚平 教授 山田 雅夫

学位論文内容の要旨

これまで、世界中で薬剤耐性の細菌性腸病原体が報告されてきている。旅行者下痢症を引き起こす細菌性腸病原体に対する、現在使用中の抗生物質の In-Vitro での感受性に関するデータはほとんどない。世界の4つの地域で旅行者下痢症を引き起こした細菌性腸病原体の、現在使用中、あるいは開発途上の抗生物質に対する感受性の評価が行われた。病原菌は、1997年にインド、メキシコ、ジャマイカ、ケニアを旅行中に旅行者下痢症にかかったアメリカ、カナダ、ヨーロッパ人で18歳以上の成人の便検体から同定された。11種類の異なる抗生物質の MIC (最小抑制濃度) が、284の細菌性腸病原体に対して、寒天希釈法を用いて測定された。

この試験により、フルオロキノロン (ニューキノロン) は、世界の大部分の地域で起こる旅行者下痢症の第一選択薬であると今なお言える。またアジスロマイシン、リファキシミンは、有望な新しい薬剤であると考えらるべきである。それに対し、伝統的なアンピシリン、サルファ合剤などは高度、高頻度の耐性を示したので今後は治療に用いるべきではない。

論文審査結果の要旨

本論文は、1997年にインド、メキシコ、ジャマイカ、ケニアを旅行中に旅行者下痢症にかかったアメリカ、カナダ、ヨーロッパ人で18歳以上の成人の便検体から同定された284株の細菌性腸病原体に対して、11種類の異なる抗生物質の MIC (最小抑制濃度) を寒天希釈法を用いて測定したものである。

この試験により、1) フルオロキノロン (ニューキノロン) は、世界の大部分の地域で起こる旅行者下痢症の第一選択薬である、2) アジスロマイシン、リファキシミンは有望な新しい薬剤である、3) 伝統的なアンピシリン、サルファ合剤などは高度、高頻度の耐性を示したので今後は治療に用いるべきではない、ということを明らかにした。

よって、本研究は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。